

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	
学年	2年	類型	商業科			
教科書(出版社)	BIG DIPPER English Communication II (数研出版)					
副教材(出版社)	UNITE 2 (数研出版)、全商英語検定試験問題集1級(実教出版)、英単語ターゲット1400(旺文社)					
授業の概要	1 予習では、単語やイディオムの意味を辞書で調べて、本文の内容を把握する。 2 予習で分からなかった箇所は、授業の説明を聞いて、ノートを整理する。 3 ペアワークやグループワークなどの言語活動を通して、英語を使う機会を増やす。					
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 英語を聞いたり読んだりして理解したことに加えて、本文内容に関する情報や自分の考えなどを整理して伝える力を養う。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標			
	1 学期	Lesson1 Why Don't You Come to School in Pajamas? Lesson2 Is Seeing Believing? Lesson3 Do You Get Enough Sleep? Lesson4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? 学習内容についての問題演習	・高校1年生で既習の文法事項を復習しながら、海外のユニークな学校行事や芸術、睡眠についてなど、比較的身近な題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・学習のポイントは、受動態、関係詞、完了形、仮定法過去、SVO(O=wh節)、SVO <sub>1</sub> O <sub>2</sub> (O <sub>2</sub> =that節)などである。			
	2 学期	Lesson5 Universal Design: Convenient for All Lesson6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer Lesson7 Learning from Nature Lesson8 The Wisdom of Preserving Food 学習内容についての問題演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、社会福祉や技術革新、食文化などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、仮定法過去完了、分詞構文、進行形の受動態、SVC(C=分詞)、SVOC(V=使役動詞、C=分詞)、未来進行形、完了形の不定詞などである。			
	3 学期	Lesson9 The Sharing Economy: Something for Everyone? Lesson10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 学習内容についての問題演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、経済や環境などの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・学習のポイントは、未来完了、無生物主語構文、複合関係代名詞、SVC(C=that節)などである。			
	観点別 評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
		語彙や文法を理解して、本文の内容を読み取る技能を身に付けている。また、本文内容に関する話題について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり、ペアで話し合ったり、ある程度まとまった分量の英文を書いたりしている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付いている。		
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	MY WAY Logic and Expression II (三省堂)				
副教材(出版社)	表現のための基礎英語構文ノート 86 (桐原書店) Listening Laboratory Basic β (教研出版) スクランブル英文法・語法 Basic 3rd Edition (旺文社)				
授業の概要	1 予習や文法事項の学習、問題演習を通して、コミュニケーションに必要な文法・語法のルールに対する理解を深める。 2 ペアやグループワークなどを通して会話表現に親しむ。また、様々なテーマに対して自分の意見や考えを表現する。				
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	Lesson1 I Love My Country! Lesson2 The New Wave of Sports Lesson3 The Future of Technology Lesson4 Rediscover <i>Kabuki</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理・表現Ⅰで既習の文法事項を復習しながら、新出の表現を学習し、異文化理解やeスポーツ、テクノロジー、日本文化などの題材に関する様々な英文から必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動を行う。</li> <li>学習のポイントは、現在完了、過去完了、助動詞の表現、助動詞+have+過去分詞、不定詞、知覚動詞、使役動詞などである。</li> </ul>		
	2 学期	Lesson5 Will Our Lives Change with AI? Lesson6 Experience Madagascar's Wildlife Lesson7 Can We Go and Live on Mars? Lesson8 Language and Society	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出の文法事項や表現を学習しながら、デジタル社会、自然、科学や異文化などの題材に関する様々な英文から必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な表現活動を行う。</li> <li>学習のポイントは、動名詞、分詞構文、with+O+分詞、比較、関係代名詞、関係副詞、仮定法などである。</li> </ul>		
	3 学期	Lesson9 Send Our Love to the World Lesson10 Follow in Our Hero's Footsteps Basic Skills	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出の文法事項や表現を学習しながら、共生、平和、SDGs、国際協力、平和などの題材に関する英文から適切に情報を読み取る。読み取った情報を基に、実際のコミュニケーションの場面で使用できる応用的な表現活動を行う。</li> </ul>		
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	学習した英語の音声や語彙、表現、文法などを正しく用いて、クラスでインタビューし合ったり、文章を書いたり、自分の考えを発表したりする技能を身に付けている。		教科書のテーマに沿って、情報・考えの流れや論理に矛盾や飛躍がなく、情報や自分の考えを伝える力を身に付けている。また、内容を整理してクラスで発表したり相手の質問に答えたりしている。	相手のことを知るために、主体的、自立的に相手に質問したり答えたりする態度、また、自分のことを知ってもらうために、自分の気持ちや意見を積極的に伝えようとする態度が身に付いている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	
学年	2年	類型	地域ビジネス科・商業科			
教科書(出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)					
副教材(出版社)	家庭科ノート、調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会編)					
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「衣食住の生活の自立と設計」「持続可能な消費生活・環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に関連を図りながら学習する。					
授業の目標	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標			
	1 学期	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフスタイルと将来の家庭生活および職業生活について考察し、生活設計を工夫する。</li> <li>・家族・家庭と社会の関わりについて理解し、男女が協力して、家庭を築くことの重要性について考察する。</li> <li>・自立した消費者として、経済生活をマネジメントする力を身に付ける。</li> <li>・持続可能な社会を目指して主体的に行動する。</li> <li>・健康・快適・安全な住生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> <li>・ホームプロジェクトの計画を立てる。</li> </ul>			
		第2章 人生をつくる				
		第9章 経済生活を営む				
		第10章 持続可能な生活を営む				
		第8章 住生活をつくる				
		○家庭クラブ・HPについて				
	2 学期	第4章 超高齢社会を共に生きる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームプロジェクトを各クラスで発表する。</li> <li>・超高齢社会の現状と課題について学び、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。</li> <li>・乳幼児期の心身の発達と生活について理解し、子どもを産み育てることの意義について考える。</li> <li>・福祉や社会的支援について理解し、社会の一員として共に支え合って生活することの重要性について考察する。</li> <li>・健康・快適・安全な衣生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> </ul>		
		第3章 子どもと共に育つ				
第5章 共に生き、共に支える						
第7章 衣生活をつくる						
3 学期	第6章 食生活をつくる ○調理実習(3回)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・快適・安全な食生活を主体的に営むために、実践的・体験的な学習活動を通して知識や技能を身に付ける。</li> <li>・自分らしい生活が実現できるよう、生活設計ができる。</li> </ul>			
	第11章 これからの生活を創造する					
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。		生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	商業	科目	ビジネス・マネジメント	単位数	2
学年	2年	類型	情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	ビジネス・マネジメント(実教出版)				
副教材(出版社)	ビジネス・マネジメント 準拠問題集(実教出版)				
授業の概要	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</li> <li>2 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を理解し、合理的・創造的に解決する力を養う。</li> <li>3 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</li> </ol>				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。</li> <li>・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。</li> <li>・ビジネスの創造について理解する。</li> <li>・組織のマネジメントについて、企業における事例と関連付けて考える。</li> <li>・組織のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案する。</li> </ul>		
	2 学 期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案する。</li> <li>・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて理解し、科学的な根拠に基づいてビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善する力を身に付ける。</li> <li>・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理する力を身に付ける。</li> </ul>		
	3 学 期	第5章 ビジネスと社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の秩序と責任について理解する。</li> <li>・学習してきた内容を踏まえたうえで、新規事業について計画する力を身に付ける。</li> </ul>		
観 点 別 評 価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役立つマネジメントに関する知識を身に付けている。		ビジネスにおけるマネジメントの知識を活用し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向やマネジメントの理論、企業の事例などの科学的な根拠に基づいて課題を解決しようと考えている。		ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び、組織の一員として自己の役割を認識したうえで経営資源のマネジメントや新たなビジネスの創造と展開に責任をもって取り組もうとしている。
備 考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	財務会計 I	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	新財務会計 I (実教出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集会計 (東京法令出版)				
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。また、利害関係者に適切な会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 企業会計に関する法規や基準について学習し、会計的側面から企業を分析する力を養う。 3 適切な会計情報を提供と活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期				
	2学期	第3編 損益計算書 第20章 損益計算書のあらまし 第21章 営業損益の計算 第22章 経常損益の計算 第23章 売上原価、販売費および一般管理費  第24章 営業外収益・営業外費用 第25章 特別利益・特別損失 第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表  第4編 その他の会計処理 第28章 役務収益・役務原価 第29章 外貨建取引 第30章 税効果会計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・損益計算の意味と役割・区分・様式(勘定式・報告式)計算方法(財産法と損益法)について理解させる。</li> <li>・収益・費用の認識と測定基準について理解させる。</li> <li>・費用収益対応の原則の役割について理解させる。</li> <li>・工事収益の計上基準と、それぞれの処理方法を理解させる。</li> <li>・売上総利益・営業利益の意味と計算方法を理解させる。</li> <li>・営業外収益・営業学費用の内容を明らかにし、経常損益の概念を理解させる。</li> <li>・特別利益・特別損失の意味や内容・会計処理を理解させる。</li> <li>・損益計算書作成上の諸原則を明らかにし、その作成方法を習得させる。</li> <li>・株主資本等変動計算書の意味と作成方法を理解させる。</li> <li>・注記表・附属明細書の意味を理解させる。</li> <li>・商品の販売とサービスの提供の違いを理解させ、役務収益・役務原価の意味・会計処理を習得させる。</li> <li>・外貨建取引の意味を理解し、適切な会計処理を習得させる。</li> <li>・円換算・為替予約の会計処理を習得させる。</li> <li>・税効果会計の意味と役割・会計処理を習得させる。</li> </ul>		
	3学期	第5編 財務諸表の活用 第31章 財務諸表のディスクロージャー 第32章 財務諸表分析 第33章 連結財務諸表のあらまし 発展編 連結財務諸表の作成 第34章 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と利害関係者およびディスクロージャーのついて理解させる。</li> <li>・財務諸表分析の意味・計算方法を理解し習得させる。</li> <li>・連結財務諸表の意味や目的・概略を理解させ、その作成方法に関して基礎的な知識と技術を習得する。</li> </ul>		
観点別 評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報を適切に活用する能力と態度を身に付けている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成し、利害関係者にとって有用性の高い分析をするなど、正確な作業ができる。	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して主体的・意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。		
備考	「原価計算」とのまとめ取りにより、10月から3月まで実施する。 学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	原価計算	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	原価計算(東京法令出版)				
副教材(出版社)	最新段階式 簿記検定問題集全商1級原価計算(実教出版)				
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳法と、原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得する。また、原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を育てる。				
授業の目標	1 原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付ける。 2 製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深める。				
年間学習計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1学期	第I編 原価と原価計算 第1章 原価の概念と原価計算 第2章 原価計算の特色と仕組み 第II編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算と記帳 第2章 労務費の計算と記帳 第3章 経費の計算と記帳 第III編 原価の部門別計算と製品別計算 第1章 個別原価計算と製造間接費の計算 第2章 部門別原価計算 第3章 総合原価計算 第IV編 内部会計 第1章 製品の完成と販売 第2章 本社・工場会計 第3章 製造業の決算	<ul style="list-style-type: none"> <li>原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色としくみについて学び、原価計算の概要について理解する。</li> <li>材料費、労務費及び経費の計算と記帳をとおして、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。</li> <li>個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算について学び、原価の部門別計算と製品別計算の行うための基礎的な知識と技術を習得する。</li> <li>製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算について学び、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。</li> </ul>		
	2学期	第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と手続き 第1章 原価差異の原因別分析 第VI編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 第2章 短期利益計画への活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成をとおして、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得する。</li> <li>直接原価計算の意義・目的・方法・手続き及び全部原価計算との違いについて理解させる。</li> <li>固定費調整の意義・方法について理解させる。</li> <li>直接原価計算が短期利益計画に有用な情報を提供できることを理解させ、損益分岐分析(CVP分析)の方法を習得する。</li> </ul>		
	3学期				
観点別評価	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用に関する理論的な知識と技術に加え、実務と関連付けられビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術が身に付いている。	原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、理論や企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫し、より良く課題に対応する力が身に付いている。	他者と信頼関係を構築して積極的にかかわり、原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などの原価情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身に付いている。		
備考	「財務会計Ⅰ」とのまとめ取りにより、4月から9月まで実施する。学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	ソフトウェア活用(実教出版)				
副教材(出版社)	情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報1級(実教出版) ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1級(実教出版)				
授業の概要	企業活動を円滑に行うために、今日においてはソフトウェアを活用することが必要不可欠となっていることから、活用するために必要な能力・態度を身に付ける。				
授業の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考え、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。		
		第2章 情報通信ネットワークの活用	・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用する機器類の基本的な利用方法や、障害等に対処するための基本的な技術を身に付ける。		
		第3章 表計算ソフトウェアの活用	・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計方法や分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。		
2 学期	第4章 データベースソフトウェアの活用	・リレーショナルデータベースの特徴や基本的な機能を理解するとともに、データベースソフトウェアを活用するための知識と技術を身に付ける。 ・SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する。			
	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用	・それぞれの業務処理用ソフトウェアを活用することの利点と、各ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。			
3 学期	第6章 情報システムの開発		・情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。		
観点別 評価	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	企業活動におけるソフトウェアの活用について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		企業活動を課改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
備考	学期ごとに3つの観点に基づき観点別学習状況を、A・B・Cの3段階で評価する。観点別学習状況に基づき、学期ごとに100点法で評価する。学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				